



## ニッペ タイルラックEMA - Sベース 100K 壁面化粧仕上げ材

### 規格表示 特長

- JIS A6909 建築用仕上塗材 複層塗材E 主 材
- ・水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。
  - ・長期にわたってすぐれた性能を発揮します。
  - ・丸みをおびた均一な立体感のある美しい凹凸模様が得られます。

### 塗料性状

色	白色					
密度(g/cm <sup>3</sup> )(23℃)	1.72					
光沢	つや消し					
引火点	-					
発火点	-					
消防法表示	化学名	-				
	危険物区分	-				
	危険物等級	-( - )				
有機溶剤区分	なし					
毒劇物表示	-					
有害物表示	-					
ホルムアルデヒド放散等級	登録(認証)番号	JIS A 6909				
	区分表示	F				
問合せ先	-					
国連/指針番号	-					
環境性能	ホルムアルデヒド	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	配合せず	パラキシレン	配合せず	イソキシレン	配合せず
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テレフタル酸	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイズ油	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず
	フェノール	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C	1.2%					
適用商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS A6909に適合する下塗りおよび上塗り塗料は次の製品になります。</li> <li>下塗り：水性透明シーラー、水性ホワイトシーラー、水性カチオンシーラーホワイト、水性カチオンシーラー透明、一液浸透シーラー、ファイン浸透シーラー、浸透性シーラー（新）</li> <li>上塗り：タイルラック水性トップつや一番、ファインウレタンU100、オーデフレッシュU100、デュフロン4Fフレッシュ、スーパーオーデフレッシュSi100、オーデフレッシュSi100、オーデフレッシュSi100、ファインシリコンフレッシュ、ファインSi100、ファイン4Fセラミック</li> </ul>					

### 塗装基準

荷姿：  
希釈剤：  
塗装方法：

20kg  
水道水

仕上げ	凹凸模様	ヘッド押さえ(キャスト)模様	ゆず肌(ライトウェーブ)模様
塗装方法	タイルガン塗り	タイルガン塗り	砂骨ローラー塗り
希釈率	1~3%	1~3%	2~6%
使用量	1.40~2.00kg/m <sup>2</sup> /回	1.40~2.00kg/m <sup>2</sup> /回	1.00~1.50kg/m <sup>2</sup> /回

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

### 乾燥時間：

	5~10	23	30
指触乾燥	2時間	1時間	30分
塗り重ね乾燥	24時間以上	16時間以上	16時間以上

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

### 特記事項

- ・絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ・蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・ALCパネルに塗装する場合は、平滑性と表面強度を保持するため、フィラ-類での下地調整が必要です。
- ・下地の状態や形状、面積、塗料温度、塗装条件などによって、見本と色調および模様の差異を生じる可能性がありますので、塗装前に試し塗りをしてください。
- ・仕上がり模様は、事前に試し塗りをを行い条件などを設定してから本施工に入ってください。

## 注意事項

- ・塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ・乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- ・スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
- ・乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- ・動物はけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着障害をおこすおそれがあります。
- ・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
- ・シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200)などで処理してください(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください)。
- ・新設ALCパネルなど表面が弱い素材の場合、本品の凝集力によって下地の表層からはく離する場合がありますので、本品を直接塗装することは避けてください。
- ・内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ・開缶後放置する時は皮が張らないようにポリエチレンシートなどでシールし、保管してください。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマ-を下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.

この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。